

新たな人事給与システムの構築稼働業務委託に関するプロポーザル 提案書評価基準

1 提案の評価方法

提案書の評価は、あらかじめ大学第一契約審査会で承認された評価基準を基に評価点を採点します。なお、評価基準点（最大評価点(満点)の60%）を超えた者の中で、最も得点の高かった業者を優先交渉権者とします。優先交渉権者に辞退があった場合には、次点者と交渉することとします。優先交渉権者及び次点者双方が辞退した場合には、順次評価基準点を超えた得点の高い者を繰り上げて交渉することとします。

※最大評価点＝提案書（200点）×当日出席した評価委員の人数＋要求機能選択式回答書（200点）

2 評価委員会における評価手順

多様な視点から評価する評価委員会を設置し、評価を行います。

- （1）評価委員会を開催し、提案書の精査、および提案書のプレゼンテーションの後、各評価委員は評価項目毎に評価点を評価表へ記入します。
- （2）評価後に評価表を回収し、事務局が集計し、評価委員会に報告します。
- （3）評価結果を大学第一契約審査会へ諮ります。

3 総合得点の算出方法

- （1）提案書

以下の内容に沿って、プレゼンテーションを実施してください。

項目	着眼点	点数
1 受託者のシステム調達・構築実績、個人情報保護に関すること		
1_1	プロジェクトの理解度 プロジェクトの背景や目的、期待していること等をどの程度理解しているか。 本学の理念を理解したビジネスパートナーとして相応しい提案であるか。	5
1_2	業務受託実績について (様式8)	5
1_3	実施体制について プロジェクトのマネジメント、設計、構築、テスト等の各業務分野に関する実施体制が十分に整っているか。 (※様式9に記載する配置予定者について、対応するポストに氏名を記載してください。)	15
1_4	配置予定者の業務実績、経験等について (様式9)	15
1_5	セキュリティについて 個人情報保護及び情報セキュリティの第三者認証の資格を有しているか。	15

		個人情報保護と情報セキュリティ管理の重要性を十分に理解し、情報漏洩が起こらないよう適切な対策を行っているか。	
1_6	システム構成の信頼性	人事給与システムの重要性を鑑み、そもそもシステム障害が発生しないような仕組みが整っているか。 万が一、システム障害や大規模災害が発生した場合に備えた準備が十分と言えるか。	20
2 業務履行計画に関する提案について			
2_1	スケジュール管理に関する提案	契約締結後からシステムの安定稼働に至るまでのスケジュールが具体的かつ実現可能性の高いものであるか。	15
2_2	プロジェクト管理に関する提案	進捗管理、リスク管理、本学とのコミュニケーション計画等、プロジェクト管理に必要な実施項目について、管理する方法が適切か。本学がプロジェクト状況を正確に把握し、必要なアクションを適切なタイミングで取れる工夫が講じられているか。	10
3 システム利用支援の体制に関する提案			
3_1	運用保守の体制に関する提案	システム稼働後の運用・保守対応における体制は十分整っているか。 定例会の実施や QA 対応等において細やかな配慮工夫がされており、相互の信頼関係が築けるか。	10
3_2	研修の実施、マニュアルの作成等運用支援に関する提案	運用開始前までに十分な研修実施体制が組まれているか。実務運用に則したマニュアルが整備されているか。	10
3_3	データ移行に関する提案	データ移行について、職員の負担が最小限となる方法で行えるよう、移行対象となるデータの整備も含めた実施方法が提案されているか。	10
3_4	将来の変化に対する柔軟性	法改正に伴うシステム改修について、期日までにシステムの改修を完了できる体制及びその実績があるか。受託者が主体的に必要な関連情報を収集し、速やかに本学にも情報提供されることが期待できるか。本学の規程改正や運用変更等にも随時柔軟な対応が可能であるか。	20
3_5	コスト管理	年度経過に伴う安定稼働の観点や、改修が必要となる法改正対応への姿勢から、運用コストの低減に実現可能性があるか。 次期バージョンのリリース予定がある場合、実施時期、バージョンアップにかかる費用、作業量はどの程度を想定しているか。	10
3_6	製品の使いやすさ	ユーザーインターフェースにわかりやすさ、馴染みやすさを感じるか。給与支給計算の処理速度等、動作性は優れているか。 (※実際に使用するシステムを動かし、画面イメージを見せてください。)	10

4 自由提案			
4_1	給与支給日変更への対応	現在、給与支給日は常勤が5日、非常勤が21日、新採用者は採用月のみ21日と複数ある。 将来的に給与支給日を統一する考えがあるが、その際の対応について、システム改修や追加費用の有無等を含め、現時点で考えられる最善の方法を提案すること。	15
4_2	システム導入の効果	本学が現状抱える課題（例：業務の属人化、複数システムが乱立していることによる業務の不効率化等）を踏まえて、貴社システムの強みや、導入することにより得られるメリットについて提案すること。	15
合計得点			200

(2) 要求機能選択式回答書（様式10）

要求仕様に対する実現度を評価するため、各要求仕様に対する対応可否を「回答」欄の列に、次の表の区分を用いて記載してください。

なお、本回答書の内容についてはプレゼンテーションの場で説明をする必要はありません。回答に基づき、自動で点数化します。

回答記号	回答内容／対応方法	配点
A	標準機能で対応できるまたはプロジェクト着手時までに、要件を満たすことができる。	5点
B	システム稼働時または本業務の履行期限までに、カスタマイズで要件を満たすことができる。	3点
C	条件付（運用の変更等）で要件を満たすことができる。	1点
×	要件を満たすことができない。	—
(未記載)	「×：要件を満たすことができない。」とみなす。	—

※「×」または未記載が1項目でもある場合は、失格とします。

※最大合計得点：機能要件（240項目）＋外部連携（19項目）×5点＝1,295点

提案者のうち、要求機能選択式回答書に対する合計得点が最も高かった業者（第一位）に200点、第二位に160点、第三位以下はすべての提案者に120点を付与します。

4 評価基準

プロポーザルの評価は「**3 総合得点の算出方法**」の各項目に沿って行います。

一定レベルの業務の質を保てるよう、最大評価点(満点)の60%を評価基準点とします。基準点を下回ったプロポーザル参加有資格者は、交渉権者になることができません。全ての応募者の提案が基準点を下回る場合には本件プロポーザルを不成立とします。

5 評価が同点となった場合の措置

評価の採点の合計点が同点の場合は、「要求機能選択式回答書」における「C」の個数が一番少ない提案者を第一順位とします。更に評価が同点となった場合には、評価委員（委員長を除く）の投票に

よる多数決で決定します。なお、票数が同数の場合には委員長が決定します。

6 各評価項目の評価点

(1) 評価の目安

提案書記述内容により、1点から5点までの5段階評価（ただし、記述がない場合は0点）とします。5段階評価の目安は、次のとおりとし、標準的な提案は3点とします。

【評価の目安】	
5	非常に優れている
4	優れている
3	普通（標準的な提案）
2	劣っている
1	非常に劣っている
0	記述がない

※評価委員は、上記の点数で評価します。

(2) 各評価項目の重み

各評価項目は重要度に応じ、配点を設定しています。

配点が5点の項目は5段階と同じ点数、配点が10点の項目は5段階評価の2倍の点数、配点が15点の項目は5段階評価の3倍の点数、配点が20点の項目は5段階評価の4倍の点数、配点が25点の項目は5段階評価の5倍の点数を評価点とします。

評価委員 の評価	評価点			
	配点が5点 の場合	配点が10点 の場合	配点が15点 の場合	配点が20点 の場合
5	5点	10点	15点	20点
4	4点	8点	12点	16点
3	3点	6点	9点	12点
2	2点	4点	6点	8点
1	1点	2点	3点	4点
係数	1	2	3	4